

Winter in Canada



カナダの冬と生活

時事通信トロント支局 平山真人

ビールのTVコマーシャルで一躍人気者になったコメディアン・コンビ、「マックenzie・ブラザーズ」は、自国カナダを「ザ・グレイト・ホワイト・ノース」と呼んだ。「大国アメリカの北にある寒いが偉大な国」とでも解すのだろうか、自嘲と自負が入り混じった宣伝文句だ。

大きさに言えば、一年のうち半年は雪と氷に閉ざされているから、同ブラザーズよりも飲んでいると過ごせない、ということになる。フロリダやカリブ海諸島へ脱出を図るカナディアンがいることは事実だが、クロスカントリー・スキーや室内テニスに汗を流し、家庭バーティや週末のコテッジで語らうという、地味だが冬を友とした生活がいたるところに見られる。厳しい冬を体験しなければカナダを語れないといっても過言ではない。カナダの冬レポートをお届けしよう。

* * *

カナダと一口に言っても、西はブリティッシュ・コロンビア州から東はニューファンドランド州まで、その地域事情は千差万別。本稿は筆者の駐在するオンタリオ州トロント市周辺の見聞記となることをまず了解願いたい。

十月末にそれまでの「夏時間」から「冬時間」に切り替わると、「冬入り宣言」されたも同然。庭の落葉集めが一段落したところに初雪がやって来る。「十一月に入ったらいつ雪が降ってもおかしくない」というのが当地での経験則で、事実、昨年は十一月初週に雪化粧を見た。

この頃になると、外で遊んでいる子供達はフットボールからアイスホッケーに種目を変える。アイスホッケーは日本の野球に匹敵するほど人気のあるスポーツだ。アメリカと合体したプロ・リーグがあつて、カナダチームは本場の強味を發揮している。とくに、エドモントン・オイラーズというチームのグレッキ選手は、最多得点王で子供達のアイドルでもある。トルドー首相を知らなくても、グレッキ選手を知らない男の子はまずいないといつてよいだろう。男の子のいる家庭には、ホッケーのステイックが転がっているのが常だ。スケートリンクの上はもちろんのこと、近所の空地でも奇声をあげながらはね回っている。ステイックを持たずとも、アイススケートが身近な遊びで、スケート靴を肩にぶら下げながらリンクに向かう子供たちの姿は珍しくない。市役所も、冬になると庁舎前広場をスケートリンクとして開放、一日中市民でにぎわっている。

一方、大人達にとっては、冬入り準備で忙しくなる。といって雪囲いをするのではなく、車の整備と室内暖房が中心だ。まずなにをさて置いても、スノータイヤに履き換えねばならない。自宅の車庫で修理マニュアルを手に、自分でタイヤ交換やら不凍液の注入に時間を費やす人、自動車修理工場へ駆け込む人、さまざまだ。当地では道路の摩滅を嫌って、タイヤにチェーンを巻くことはしないから、雪道走行にはスノータイヤが不可欠だ。もつとも、その代わり道路の凍結防止の